

Sumie Kikuchi



春想

59.0 x 59.0 cm
墨 顔彩 胡粉 色紙 / 2014

美しい日本の自然を描く菊池澄江。その作品に登場するのは、富士山に代表されるように日本人なら誰もが知っているような有名なモチーフだ。だからだるうか、観る者は絵の中に安らぎを感じるようだ。そして、言葉では説明することのできない懐かしさも。なぜ人は、菊池作品から安らぎや懐かしさを読み取るのか？ もしかするとこの画家が、作品の中に自らのふるさとの思い出を託しているからかもしれない。例えば、表面に描かれている山の姿は富士山でも、その奥底には菊池が子どもの頃からずっと眺めて育った立山への想いが託されているのだ。観る者はそこに自分自身にとっての懐かしい山の姿を仮託する。青森県出身の人は、作品『春想』の中に岩木山を見出すかもしれないし、徳島県生まれの人は剣山を、熊本県出身者は阿蘇山を思い浮かべるかもしれない。それぞれの心の中にある様々な山を蘇らせる力が、この絵にはあるのだ。

ふるさと黒部の思い出を
美しい風景に託して描く

水墨画家

菊池 澄江